



テンプレート、リリース
12.1.3

目次

新機能と更新情報.....	3
テンプレート (Templates)	4
新規テンプレートの作成.....	5
テンプレートの編集.....	7
テンプレートのインポート	9
POAP テンプレートのインストール.....	10
テンプレート構造	11
テンプレートの形式.....	11
テンプレート変数.....	16
例：テンプレート変数.....	19
可変メタ プロパティ.....	19
例：メタ プロパティの使用	26
可変注釈	27
例：AutoPopulate 注釈	29
例：DisplayName 注釈.....	29
例：IsMandatory注釈	30
例：IsMultiLineString 注釈.....	30
IsShow 注釈.....	30
例：警告の注釈.....	31
テンプレートの内容	31
高度な機能.....	34
レポート テンプレート	36
アップグレード.....	37
GENERIC	37
著作権	40

新機能と更新情報

次の表は、この最新リリースまでの主な変更点の概要を示したものです。ただし、今リリースまでの変更点または、新機能の一部は表に記載されていません。

リリースバージョン	特長	説明
NDFC リリース 12.1.3	整理し直したコンテンツ	このドキュメント内のコンテンツは元来 『Cisco NDFC-Fabric Controller Configuration Guide』 または 『Cisco NDFC-SAN Controller Configuration Guide』 で提供されました。 リリース 12.1.3 以降、このコンテンツは現在、このドキュメントでのみ提供されており、これらのドキュメントでは提供されなくなっています。

テンプレート (Templates)

テンプレート UI ナビゲーション

- [オペレーション (Operations)] [テンプレート (Templates)] を選択します。

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ Web クライアントを使用して、異なる Cisco Nexus、IOS-XE、IOS- XR、および Cisco MDS プラットフォームで設定されているテンプレートを追加、編集、または削除できます。Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ Web クライアントで設定されているテンプレートごとに、次のパラメータが表示されます。テンプレートは JavaScript をサポートします。テンプレートの JavaScript 関数を使用して、テンプレートの構文で算術演算と文字列操作を実行できます。

表1. テンプレート テーブルのフィールドと説明

フィールド	説明
名前	テンプレート名を指定します。
サポートされるプラットフォーム	テンプレートがサポートするプラットフォームを指定します。
タイプ	テンプレート タイプを指定します。
サブタイプ	テンプレート サブ タイプを指定します。
変更日	テンプレート変更の日時を指定します。
タグ (Tags)	テンプレートがファブリックまたはデバイスにタグ付けされているかどうかを指定します。
説明	テンプレートの説明を指定します。
参照カウント	テンプレートが使用される回数を指定します。

テーブルヘッダーをクリックすると、そのパラメータのアルファベット順にエントリがソートされます。




エラーのあるテンプレートは、[テンプレート (Templates)] ウィンドウに表示されません。エラーがあるテンプレートはインポートできません。このようなテンプレートをインポートするには、エラーを修正してインポートします。次の表では、[テンプレート (Templates)] ウィンドウに表示される [アクション (Actions)] ドロップダウン リストのアクション項目について説明します。

表2. テンプレートのアクションと説明

Actions	説明
新しいテンプレートの作成	新しいテンプレートを作成できるようにします。詳細については、「 新しいテンプレートの作成 (Creating a New Template) 」を参照してください。

Actions	説明
テンプレートのプロパティの編集	テンプレートのプロパティを編集できるようにします。一度に編集できるテンプレートは1つだけです。詳細については、「 新しいテンプレートの編集 (Editing a Template) 」を参照してください。
テンプレートの内容の編集	テンプレートの内容を編集できるようにします。一度に編集できるテンプレートは1つだけです。詳細については、「 新しいテンプレートの編集 (Editing a Template) 」を参照してください。
テンプレートの複数	選択したテンプレートを別の名前で複製できるようにします。必要に応じて、テンプレートを編集できます。テンプレートは、一つずつのみ複製できます。テンプレートを複製するには、複製するテンプレートの横にあるチェックボックスをオンにし、 [テンプレートの複製 (Duplicate template)] を選択します。 [テンプレートの複製 (Duplicate template)] ウィンドウが表示されます。複製されるテンプレートの名前を指定します。複製されたテンプレートの詳細については、 テンプレートの編集 を参照してください。
テンプレートの削除	テンプレートを削除できるようにします。1つのインスタンスで複数のテンプレートを削除できます。ユーザーに定義されたテンプレートを削除できます。定義済みのテンプレートを削除することは、できません。テンプレートを削除するには、削除するテンプレートの横にあるチェックボックスをオンにし、 [テンプレートの削除 (Delete template)] を選択します。警告メッセージが表示されます。テンプレートを削除する場合は、 [確認 (Confirm)] をクリックします。削除しない場合は、 [Cancel] をクリックします。テンプレートが使用中であるか、出荷テンプレートである場合は、削除できず、エラーメッセージが表示されます。(注) 同じインスタンスで削除するために複数のテンプレートを選択します。テンプレートを完全に削除するには、ローカルディレクトリ： Cisco Systems\dcn\ndfc\data\templates\ にあるテンプレートを削除します。
インポート	ローカルディレクトリからテンプレートを1つずつインポートできます。詳細については、「 新しいテンプレートのインポート (Import a Template) 」を参照してください。

Zip としてインポート	<p>.zip 形式でバンドルされた複数のテンプレートを含む .zip ファイルをインポートできます。ZIP ファイル内のすべてのテンプレートが抽出され、個々のテンプレートとしてテーブルにリストされます。詳細については、「新しいテンプレートのインポート (Import a Template)」を参照してください</p> <p> Nexus の POAP テンプレートをインストールするには ダッシュボードファブリック コントローラ 仮想アプライアンス (OVA または ISO) については、「POAP テンプレートのインストール」を参照してください。</p>
Actions	説明
エクスポート	<p>ローカル ディレクトリの場所にテンプレート設定をエクスポートできます。一度にエクスポートできるテンプレートは 1 つだけです。テンプレートをエクスポートするには、テンプレートの横にあるチェックボックスを使用して選択し、[エクスポート (Export)] を選択します。テンプレート ファイルを保存するローカル システム ディレクトリの場所を選択します。[保存 (Save)] をクリックします。テンプレート ファイルがローカル ディレクトリにエクスポートされます。</p>

network-operator ロールを持つテンプレートのみを表示できます。このロールでテンプレートを作成、編集、または保存することはできません。ただし、**network-stager** ロールを使用してテンプレートを作成または編集できます。

新規テンプレートの作成

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ UI ナビゲーション

- [オペレーション (Operations)] [テンプレート (Templates)] を選択します。

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ Web UI からユーザー定義のテンプレートを作成し、ジョブをスケジュールするには、次の手順を実行します。

1. [テンプレート (Templates)] ウィンドウで、[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから [新規テンプレートの作成 (Create new template)] を選択します。

[テンプレートの作成 (Create Template)] ウィンドウが表示されます。

2. ウィンドウの [テンプレート プロパティ (Template Properties)] ページで、テンプレート名、説明、タグを指定し、新しいテンプレートのサポート対象プラットフォームを選択します。次に、ドロップダウンリストからテンプレートタイプとサブテンプレートタイプを選択します。ドロップダウンリストからテンプレートのコンテンツタイプを選択します。



基本テンプレートは CLI テンプレートです。

3. [次へ (Next)] をクリックしてテンプレートの編集を続行するか、[キャンセル (Cancel)] をクリックして変更を破棄します。

編集したテンプレートのプロパティは、[テンプレートの編集 (Edit Template)] ウィンドウの [テンプレート コンテンツ (Template Content)] ページに表示されます。構成テンプレートの構造については、「テンプレートの構造」の項を参照してください。

4. [検証 (Validate)] をクリックして、テンプレートの構文を検証します。



警告のみがある場合は、テンプレートの保存を続行できます。ただし、エラーが発生した場合は、続行する前にテンプレートを編集してエラーを

修正する必要があります。[開始行 (Start Line)] 列の下の行番号をクリックして、テンプレートの内容でエラーを見つけます。テンプレート名がないテンプレートを検証すると、エラーが発生します。

5. [ヘルプ (Help)] をクリックして、右側の [エディタ (Help)] ペインを開きます。

このウィンドウには、テンプレートの作成に使用された形式、変数、コンテンツ、およびデータ型に関する詳細情報が表示されます。[エディタのヘルプ (Editor Help)] ペインを閉じます。

6. リンクが表示されたら、エラーおよび警告をクリックします。エラーまたは警告がない場合、リンクは使用できません。エラーまたは警告が表示されている場合にリンクをクリックすると、右側に [エラーおよび警告 (Errors & Warnings)] ペインが表示され、エラーと警告が表示されます。[エラーおよび警告 (Errors & Warnings)] ペインを閉じます。

7. テンプレート コンテンツを作成するには、必要なテーマ、キー バインディング、およびフォントサイズをドロップダウンリストから選択します。

8. [完了 (Finish)] をクリックしてテンプレートの編集を完了し、[キャンセル (Cancel)] をクリックして変更を破棄し、[前へ (Previous)] をクリックして [テンプレート プロパティ (Template Properties)] ページに移動します。

テンプレートが作成されたことを示すメッセージのページが表示されます。このページには、テンプレート名、タイプ、サブタイプ、およびプラットフォームも表示されます。[別のテンプレートの作成 (Create another template)] をクリックしてもう 1 つのテンプレートを作成するか、[テンプレートを編集<template name> (Edit template)] をクリックして編集したばかりのテンプレートを編集します。

9. [テンプレートの編集 (Edit Template)] ウィンドウを閉じるか、[テンプレート ライブラリに戻る (Back to template library)] をクリックして[テンプレート (Templates)] に戻ります。閉じます。

テンプレートの編集

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ UI ナビゲーション

- **[オペレーション (Operations)] [テンプレート (Templates)]** を選択します。

ユーザ定義のテンプレートを編集できます。ただし、定義済みのテンプレートおよびすでに公開されているテンプレートは編集できません。

[テンプレートの編集 (Edit Template)] ウィンドウを使用して、最初にテンプレートのプロパティを編集し、次にテンプレートの内容を編集します。さらに、**[テンプレート プロパティの編集 (Edit Template Properties)]** アクションを使用してテンプレート プロパティのみを編集するか、**[テンプレート コンテンツの編集 (Edit template content)]** アクションを使用してテンプレート コンテンツのみを編集できます。つまり、あるインスタンスでテンプレートのプロパティを編集してから、別のインスタンスでテンプレートの内容を編集できます。このウィンドウを使用して、テンプレートのプロパティとコンテンツを表示することもできます。

テンプレートのプロパティを編集し、テンプレートの内容を編集するには、次の手順を実行します：

1. **[テンプレート (Templates)]** ウィンドウで、テンプレートを選択します。**[アクション (Actions)]** ドロップダウン リストから、**[テンプレート プロパティの編集 (Edit Template Properties)]** を選択します。

[テンプレートの編集 (Edit Template)] ウィンドウが表示されます。

2. ウィンドウの **[テンプレート プロパティ (Template Properties)]** ページに、テンプレートの名前、その説明、サポートされるプラットフォーム、タグ、およびコンテンツ タイプが表示されます。テンプレートの説明とタグを編集できます。サポートされているプラットフォームを編集するには、選択したチェックボックスをオフにして他のスイッチを選択します。次に、ドロップダウン リストからテンプレート タイプとサブテンプレート タイプを選択します。
3. **[次へ (Next)]** をクリックしてテンプレートの編集を続行するか、**[キャンセル (Cancel)]** をクリックして変更を破棄します。

編集したテンプレートのプロパティは、**[テンプレートの編集 (Edit Template)]** ウィンドウの **[テンプレート コンテンツ (Template Content)]** ページに表示されます。

4. **[検証 (Validate)]** をクリックして、テンプレートの構文を検証します。



警告のみがある場合は、テンプレートの保存を続行できます。ただし、エラーが発生した場合は、続行する前にテンプレートを編集してエラーを

修正する必要があります。**[開始行 (Start Line)]** 列の下の行番号をクリックして、テンプレートの内容でエラーを見つけます。テンプレート名がないテンプレートを検証すると、エラーが発生します。

5. **[ヘルプ (Help)]** をクリックして、右側の **[エディタ (Help)]** ペインを開きます。

このウィンドウには、テンプレートの作成に使用された形式、変数、コンテンツ、およびデータ型に関する詳細情報が表示されます。**[エディタのヘルプ (Editor Help)]** ペインを閉じます。

6. リンクが表示されたら、**エラー**および**警告**をクリックします。エラーまたは警告がない場合、リンクは使用できません。エラーまたは警告が表示されている場合にリンクをクリックする

と、右側に[エラーおよび警告 (Errors&Warnings)] ペインが表示され、エラーと警告が表示されます。[エラーおよび警告 (Errors&Warnings)] ペインを閉じます。

7. テンプレート コンテンツを作成するには、必要なテーマ、キー バインディング、およびフォント サイズを次から選択します：

ドロップダウンリスト。

8. [完了 (Finish)] をクリックしてテンプレートの編集を完了し、[キャンセル (Cancel)] をクリックして変更を破棄し、[前へ (Previous)] をクリックして [テンプレート プロパティ (Template Properties)] ページに移動します。

テンプレートが保存されたことを示すメッセージが表示されたページが表示されます。このページには、テンプレート名、タイプ、サブタイプ、およびプラットフォームも表示されます。[別のテンプレートの作成 (Create another template)] をクリックしてもう 1 つのテンプレートを作成するか、[テンプレートを編集<template name> (Edit template)] をクリックして編集したばかりのテンプレートを編集します。

9. [テンプレートの編集 (Edit Template)] ウィンドウを閉じるか、[テンプレート ライブラリに戻る (Back to template library)] をクリックして *テンプレート (Templates) *ウィンドウに戻ります。

テンプレートのインポート

UIナビゲーション

- [オペレーション (Operations)] [テンプレート (Templates)] を選択します。

zip 形式のテンプレートをインポートする場合も、同じ手順に従います。



- テンプレート内の「\n」は、インポートおよび編集されると改行文字と見なされますが、ZIP ファイルとしてインポートされると正常に機能します。
 - Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ 仮想アプライアンス (OVA または ISO) の POAP テンプレートをインストールできます。詳細については、「POAPのインストール」を参照してください。

[テンプレート (Templates)]。

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ Web UIから テンプレートをインポートするには、次の手順を実行します：

1. [テンプレート (Templates)] ウィンドウで、[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから [テンプレートのインポート (Import template)] を選択します。

[テンプレートのインポート (Import Template)] ウィンドウが表示されます。

2. コンピュータに保存されているテンプレートを参照して選択します。
3. [OK] をクリックしてテンプレートをインポートするか、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてテンプレートを破棄します。



圧縮されたテンプレート ファイルをインポートすると、成功またはエラー メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

4. 必要に応じて、テンプレート パラメータとコンテンツを編集できます。詳細については、「[新しいテンプレートの編集 \(Editing a Template\)](#)」を参照してください。

圧縮されたテンプレート ファイルをインポートすると、[テンプレートの編集 (Edit Template)] ウィンドウが表示されない

- ◎ ことがあります。ただし、必要に応じて [テンプレートの編集 (Edit Template)] アクションを使用して、テンプレート パラメータとコンテンツを編集できます。

5. テンプレートのプロパティまたはコンテンツを編集しない場合は、[次へ (Next)] をクリックし続けます。そして、[終了 (Finish)] をクリックし、[テンプレートライブラリに戻る (Back to template library)] をクリックして、[テンプレート (Templates)] ウィンドウに戻ります。

POAP テンプレートのインストール

UI ナビゲーション

- **[オペレーション (Operations)]** **[テンプレート (Templates)]** を選択します。

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラでは、異なる Cisco Nexus プラットフォームで設定されているユーザ定義テンプレートを追加、編集、または削除できます。Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ リリース 10.0 (x) 以降、シスコ定義の FabricPath および IP VXLAN プログラマブル ファブリック POAP テンプレートは、シスコの公式 Web サイトから個別にダウンロードできます。これらのテンプレートは、Nexus 2000、Nexus 5000、Nexus 6000、Nexus 7000、および Nexus 9000 シリーズ スイッチで使用する Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ 仮想アプライアンス (OVA または ISO) で使用できます。

Cisco 定義 のテンプレート は、<https://software.cisco.com/download/release.html> から ダウンロード できます。

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ から POAP テンプレートをインストールするには、次のタスクを実行します。

1. <https://software.cisco.com/download/release.html> に移動し、ファイルをダウンロードします。

次のいずれかを選択できます。

- `ndfc_ip_vxlan_fabric_templates.10.0.1a.zip`
- `ndfc_fabricpath_fabric_templates.10.0.1a.zip` ファイル

2. ファイルを解凍し、コンピューターのローカル ディレクトリに抽出します。
3. **[アクション (Actions)]** ドロップダウン リストから **[テンプレートのインポート (Import Template)]** をクリックします。
4. コンピュータに保存されているテンプレートを参照して選択します。必要に応じて、テンプレートパラメータを編集できます。
5. これらのテンプレートを POAP テンプレートとして指定するには、**[POAP and Publish]** チェックボックスをオンにします。
6. **[テンプレート構文の検証]** をクリックして、テンプレートを検証します。
7. **[保存 (Save)]** をクリックしてテンプレートを保存するか、**[保存して終了 (Save and Exit)]** をクリックしてテンプレートを保存して終了します。

テンプレート構造

構成テンプレートの内容は、主に4つの部分で構成されます。テンプレートのコンテンツの編集については、

[テンプレートコンテンツ (Template Content)] の横にある [ヘルプ (Help)] アイコンをクリックします。

テンプレートの形式

ここでは、テンプレートの基本情報について説明します。次の表に、使用可能なフィールドの詳細を示します。

プロパティ名	説明	有効な値	任意?
名前 (name)	テンプレートの名前	テキスト	いいえ
説明	テンプレートに関する簡単な説明	テキスト (Text)	はい
userDefined	ユーザがテンプレートを作成したかどうかを示します。ユーザが作成した場合、値は「true」です。	「true」または「false」	はい
supportedPlatforms	この設定テンプレートをサポートするデバイス プラットフォームのリスト。すべてのプラットフォームをサポートするには、「All」を指定します。	N1K、N3K、N3500、N4K、N5K、N5500、N5600、N6K、N7K、N9K、MDS、VDC、N9K-9000v 、IOS-XE、IOS-XR、その他、すべての Nexus スイッチのリストがカンマで区切られています。	いいえ
templateType	使用するテンプレートのタイプを指定します。	<ul style="list-style-type: none">• CLI• POAP POAP オプションは、Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ LAN ファブリックの展開には適用されません。 <ul style="list-style-type: none">• ポリシー• SHOW• プロファイル• ファブリック• [抽象 (ABSTRACT)]• レポート	はい

プロパティ名	説明	有効な値	任意？
templateSubType	<p>テンプレートに関連付けられたサブタイプを指定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • CLI <ul style="list-style-type: none"> ◦ なし • POAP <ul style="list-style-type: none"> ◦ なし ◦ VXLAN ◦ FABRICPATH ◦ VLAN ◦ PMN <p>POAP オプションは、Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ LAN ファブリックの展開には適用されません。</p> • ポリシー <ul style="list-style-type: none"> ◦ VLAN ◦ interface-vlan ◦ INTERFACE_VPC ◦ INTERFACE_ETHERNET ◦ INTERFACE_BD ◦ INTERFACE_PORT_CHANNEL ◦ INTERFACE_FC ◦ INTERFACE_MGMT ◦ INTERFACE_LOOPBACK ◦ INTERFACE_NVE ◦ INTERFACE_VFC ◦ INTERFACE_SAN_PORT_CHANNEL ◦ DEVICE ◦ FEX ◦ INTRA_FABRIC_LINK ◦ INTER_FABRIC_LINK ◦ INTERFACE 	

プロパティ名	説明	有効な値	任意 ?
templateSubType (続き)	テンプレートに関連付けられたサブタイプを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> • SHOW <ul style="list-style-type: none"> ◦ VLAN ◦ interface-vlan ◦ INTERFACE_VPC ◦ INTERFACE_ETHERNET ◦ INTERFACE_BD ◦ ◦ INTERFACE_PORT_CHANNEL ◦ INTERFACE_FC ◦ INTERFACE_MGMT ◦ INTERFACE_LOOPBACK ◦ INTERFACE_NVE ◦ INTERFACE_VFC ◦ ◦ INTERFACE_SAN_PORT_CHANNEL ◦ DEVICE ◦ FEX ◦ INTRA_FABRIC_LINK ◦ INTER_FABRIC_LINK ◦ INTERFACE • プロファイル <ul style="list-style-type: none"> ◦ VXLAN • ファブリック <ul style="list-style-type: none"> ◦ 該当なし 	

プロパティ名	説明	有効な値	任意 ?
templateSubType (続き)	テンプレートに関連付けられたサブタイプを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> • [抽象 (ABSTRACT)] <ul style="list-style-type: none"> ◦ VLAN ◦ interface-vlan ◦ INTERFACE_VPC ◦ INTERFACE_ETHERNET ◦ INTERFACE_BD ◦ ◦ INTERFACE_PORT_CHANNEL ◦ INTERFACE_FC ◦ INTERFACE_MGMT ◦ INTERFACE_LOOPBACK ◦ INTERFACE_NVE ◦ INTERFACE_VFC ◦ ◦ INTERFACE_SAN_PORT_CHANNEL ◦ DEVICE ◦ FEX ◦ INTRA_FABRIC_LINK ◦ INTER_FABRIC_LINK ◦ INTERFACE • レポート <ul style="list-style-type: none"> ◦ アップグレード ◦ GENERIC 	

プロパティ名	説明	有効な値	任意？
contentType		<ul style="list-style-type: none"> • CLI <ul style="list-style-type: none"> ◦ TEMPLATE_CLI • POAP <ul style="list-style-type: none"> ◦ TEMPLATE_CLI <p>POAP オプションは、Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ LAN ファブリックの展開には適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー <ul style="list-style-type: none"> ◦ TEMPLATE_CLI ◦ PYTHON • SHOW <ul style="list-style-type: none"> ◦ TEMPLATE_CLI • プロファイル <ul style="list-style-type: none"> ◦ TEMPLATE_CLI ◦ PYTHON • ファブリック <ul style="list-style-type: none"> ◦ PYTHON • [抽象 (ABSTRACT)] <ul style="list-style-type: none"> ◦ TEMPLATE_CLI ◦ PYTHON • レポート <ul style="list-style-type: none"> ◦ PYTHON 	はい
実装 (Implement)	抽象テンプレートを実装するために使用されます。	テキスト (Text)	はい
依存関係	スイッチの特定の機能を選択するために使用されます。	テキスト (Text)	はい
公開	テンプレートを読み取り専用としてマークし、変更を回避するために使用されます。	「true」または「false」	はい

テンプレート変数

このセクションには、テンプレートに使用されるパラメータの宣言された変数、データ型、デフォルト値、および有効な値の条件が含まれます。これらの宣言された変数は、動的コマンド生成プロセス中にテンプレート コンテンツ セクションの値の置換に使用されます。また、これらの変数は、意思決定およびテンプレート コンテンツ セクションの反復ブロックで使用されます。変数には事前定義されたデータ型があります。変数に関する説明を追加することもできます。次の表に、使用可能なデータ型の構文と使用方法を示します。

変数の型	有効値	反復可能?
boolean	true false	いいえ
enum	例 : copy running-config、startup-config	いいえ
浮動	浮動小数点フォーマット	いいえ
floatRange	例 : 10.1、50.01	はい
整数型 (Integer)	任意の数値	いいえ
integerRange	「-」で区切られた連続する番号「,」で区切られた個別の番号 例 : 1-10、15、18、2	はい
インターフェイス	フォーマット : <if type><slot>[/<sub> slot>]/<port> 例 : eth1/1、fa10/1/2 など。	いいえ
interfaceRange	例 : eth10/1/20-25、eth11/1-5	はい
IPアドレス	IPv4 または IPv6 アドレス	いいえ

変数の型	有効値	反復可能?
ipAddressList	IPv4、IPv6、または両方のタイプのアドレスの組み合わせのリストを作成できます。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p>例 1 : 172.22.31.97、 172.22.31.99、 172.22.31.105、 172.22.31.109</p> <p>例 2 : 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334、 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7335、 2001:0db8:85a3:1230:0000:8a2f:0370:7334 例 3 : 172.22.31.97, 172.22.31.99、 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334、 172.22.31.254</p> </div>	はい
ipAddressWithoutPrefix	例 : 192.168.1.1 または 例 : 1:2:3:4:5:6:7:8	いいえ
ipV4Address	IPv4 アドレス	いいえ
ipV4AddressWithSubnet	例 : 192.168.1.1/24	いいえ
ipV6Address	[IPv6 アドレス (IPv6 address)]	いいえ
ipV6AddressWithPrefix	例 : 1:2:3:4:5:6:7:8 22	いいえ
ipV6AddressWithSubnet	IPv6アドレスとサブネット	いいえ
ISISNetAddress	例 : 49.0001.00a0.c96b.c490.00	いいえ

変数の型	有効値	反復可能?
long	例: 100	いいえ
MAC アドレス	14 または 17 文字長の MAC アドレス フォーマット	いいえ
string	変数の説明などに使用される自由テキスト 例: string scheduledTime { regularExpr=^([01]\d 2[0-3]):([0-5]\d)\$; }	いいえ
string[]	例 : {a,b,c,str1,str2}	はい
構造体	単一の変数にバンドルされているパラメータのセット。 struct <structure name declaration > { <parameter type> <parameter 1>; <parameter type> <parameter 2>; } [<structure_inst1>] [, <structure_inst2>] [, <structure_array_inst3 []>]; struct interface_detail { string inf_name; string inf_description; ipAddress inf_host; enum duplex { validValues = auto, full, half; }; }myInterface, myInterfaceArray[];	いいえ 構造体変数が配列として宣言されている場合、変数は反復型です。
wwn (Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ Web クライアントでのみ使用可能)	例 : 20:01:00:08:02:11:05:03	いいえ

例：テンプレート変数

```
##template variables
integer VSAN_ID;
string SLOT_NUMBER;
integerRange PORT_RANGE;
integer VFC_PREFIX;
##
```

可変メタプロパティ

テンプレート変数セクションで定義されている各変数には、一連のメタプロパティがあります。メタプロパティは、主に変数に定義されている検証ルールです。

次の表に、使用可能な変数タイプに適用されるさまざまなメタプロパティを示します。

変数メタプロパティテーブル、第1部

変数の型	説明	可変メタプロパティ				
		デフォルト値	有効な値	10進数の長さ	最低	最大
boolean	ブール値。 例：true	はい				
enum			はい			
浮動	符号付き実数。 例：75.56、-8.5	はい	はい	はい	はい	はい
floatRange	符号付き実数の範囲 例：50.5 - 54.75	はい	はい	はい	はい	はい

integer	符号付き実数。 例：50、-75	はい	はい		はい	はい
integerRange	符号付き実数の範囲。 例：50-65	はい	はい		はい	はい
インターフェイス	インターフェイス/ポートを指定します。 例：イーサネット 5/10	はい	はい			
interfaceRange		はい	はい			
IPアドレス	IPv4 または IPv6 フォーマットの IP アドレス。	はい				
ipAddressList	IPv4、IPv6、または両方のタイプのアドレスの組み合わせのリストを作成できます。 例 1： 172.22.31.97、 172.22.31.99、 172.22.31.105、 172.22.31.109 例 2： 2001:0db8:85a3:0000:00 00:8a2e:0370:7334、 2001:0db8:85a3:0000:00 00:8a2e:0370:7335、 2001:0db8:85a3:1230:00 00:8a2f:0370:7334 例 3： 172.22.31.97、 172.22.31.99、 2001:0db8:85a3:0000:00 00:8a2e:0370:7334、 172.22.31.254 リスト内のアドレスは、ハイフンではなくカンマで区切ります。	はい				

プレフィックスなしの ipAddress	IPv4 または IPv6 アドレス (プレフィックス/サブネットは不要)。					
ipV4Address	IPv4 アドレス	はい				
ipV4AddressWithSubnet	IPv4アドレスとサブネット	はい				
ipV6Address	[IPv6 アドレス (IPv6 address)]	はい				
ipV6AddressWithPrefix	プレフィックス付きIPv6アドレス	はい				
ipV6AddressWithSubnet	IPv6アドレスとサブネット	はい				
ISISNetAddress	例 : 49.0001.00a0.c96b.c490. .00					
long	例: 100	はい			はい	はい
MAC アドレス	MAC アドレス					
string	リテラル文字列 string 正規表現の例 : string scheduleTime { regularExpr=^([01]\d 2[0-3]):([0-5]\d)\$; }	はい				
string[]	カンマ (、) で区切られた文字列リテラル 例 : {string1, string2}	はい				

構造体	<p>単一の変数にバンドルされているパラメータのセット。</p> <pre> struct <structure name declaration > { <parameter type> <parameter 1>; <parameter type> <parameter 2>; } [<structure_inst1> [, <structure_inst2>] [, <structure_array_inst3 []>]; </pre>					
wwn	WWN アドレス					

変数メタプロパティ テーブル、第2部

変数の型	説明	可変メタプロパティ						
		最小 スロ ット	最大 スロ ット	最小 ポー ト	最大 ポー ト	最小長	最大長	正規 表現
boolean	<p>ブール値。</p> <pre> 例 : true </pre>							
enum								
浮動	<p>符号付き実数。</p> <pre> 例 : 75.56、 -8.5 </pre>							

floatRange	符号付き実数の範囲。 例 : 50.5 - 54.75							
integer	符号付き実数 例 : 50、-75							
integerRange	符号付き実数の範囲。 例 : 50-65							
インターフェイス	インターフェイス/ポートを指定します。 例 : イーサネット 5/10	はい	はい	はい	はい			
interfaceRange		はい	はい	はい	はい			
IPアドレス	IPv4 または IPv6 形式の IP アドレス。							

ipAddressList	<p>IPv4、IPv6、または両方のタイプのアドレスの組み合わせのリストを作成できます。</p> <p>例 1： 172.22.31.97、 172.22.31.99、 172.22.31.105、 172.22.31.109</p> <p>例 2： 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334、 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7335、 2001:0db8:85a3:1230:0000:8a2f:0370:7334</p> <p>例 3： 172.22.31.97、 172.22.31.99、 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334、 172.22.31.254</p> <p>リスト内のアドレスは、ハイフンではなくカンマで区切ります。</p>							
プレフィックスなしの ipAddress	IPv4 または IPv6 アドレス（プレフィックス/サブネットは不要）。							
ipV4Address	IPv4 アドレス。							
ipV4AddressWithSubnet	サブネット付きの IPv4 アドレス。							
ipV6Address	IPv6 アドレス。							
ipV6AddressWithPrefix	プレフィックス付きの IPv6 アドレス。							

ipV6AddressWithSubnet	サブネット付きのIPv6 アドレス。							
ISISNetAddress	例： 49.0001.00a0.c96b .c490.00							
long	例: 100							
MAC アドレス	MAC アドレス							
string	リテラル文字列 string 正規表現 の例: string scheduleTime { regularExpr=^([01]\d 2[0-3]):([0- 5]\d)\$; }					はい	はい	はい
string[]	カンマ (、) で区切ら れた文字列リテラル 例: {string1, string2}							

構造体	<p>単一変数にバンドルされてる一連のパラメータ。</p> <pre> struct <structure 名前宣言 > { <parameter type> <parameter 1>; <parameter type> <parameter 2>; } [<structure_inst1 >] [, <structure_inst2>] [, <structure_array_ inst3 []>; </pre>							
wwn	WWN アドレス							

例：メタプロパティの使用

```

##テンプレート変数

整数 VLAN_ID { min
= 100;
最大 = 200;
};

string USER_NAME
{ defaultValue =
admin123; minLength = 5;
};

struct
interface_a{ string inf_name;
string inf_description;
IPAddress inf_host;
enum duplex {
validValues = auto, full, half;
};
}myInterface;

##

```

可変注釈

注釈を使用して変数をマーキングする変数プロパティを構成できます。

- ◎ 可変注釈は、POAP でのみ使用できます。ただし、注釈は
 ◎ テンプレートタイプ「CLI」への影響は、ありません。 テンプレート変数セクションでは、
 次の注釈を使用できます。

注釈キー	有効な値	説明
AutoPopulate	テキスト (Text)	あるフィールドから別のフィールドに値をコピーします。
DataDepend	テキスト	
説明	[テキスト (Text)]	ウィンドウに表示されるフィールドの説明
DisplayName	テキスト (Text) スペースがある場合は、テキストを引用符で囲みます。	ウィンドウに表示されるフィールドの表示名
列挙体	Text1、Text2、Text3 など	選択するテキストまたは数値をリストします
IsAlphaNumeric	「true」または「false」	文字列には、英数字を使用します。
IsAsn	「true」または「false」	
IsDestinationDevice	「true」または「false」	
IsDestinationFabric	「true」または「false」	
IsDestinationInterface	「true」または「false」	
IsDestinationSwitchName	「true」または「false」	
IsDeviceID	「true」または「false」	
IsDot1qId	「true」または「false」	
IsFEXID	「true」または「false」	

注釈キー	有効な値	説明
IsGateway	「true」または「false」	IP アドレスがゲートウェイかどうかを検証します。
IsInternal	「true」または「false」	フィールドを内部にし、ウィンドウに表示しません。 この注釈は、ipAddress 変数にのみ使用します。
IsManagementIP	「true」または「false」 この注釈は、変数「ipAddress」に対してのみマークする必要があります。	
is_mandatory	「true」または「false」	値をフィールドに強制的に渡す必要があるかどうかを検証します
IsMTU	「true」または「false」	
IsMultiCastGroupAddress	「true」または「false」	
IsMultiLineString	「true」または「false」	文字列 フィールドを複数行の文字列テキストエリアに変換します
IsMultiplicity	「true」または「false」	
IsPassword	「true」または「false」	
IsPositive	「true」または「false」	値が正であるかどうかを確認します。
IsReplicationMode	「true」または「false」	
IsShow	「true」または「false」	ウィンドウのフィールドを表示または非表示にします
IsSiteId	「true」または「false」	
IsSourceDevice	「true」または「false」	
IsSourceFabric	「true」または「false」	

注釈キー	有効な値	説明
IsSourceInterface	「true」または「false」	
IsSourceSwitchName	「true」または「false」	
IsSwitchName	「true」または「false」	
IsRMID	「true」または「false」	
IsVPCDomainID	「true」または「false」	
IsVPCID	「true」または「false」	
IsVPCPeerLinkPort	「true」または「false」	
IsVPCPeerLinkPortChannel	「true」または「false」	
IsVPCPortChannel	「true」または「false」	
[パスワード (Password)]	テキスト (Text)	パスワードフィールドを検証します
UsePool	「true」または「false」	
UseDNSReverseLookup		
ユーザ名	テキスト (Text)	ウィンドウにユーザ名フィールドを表示します。
警告	テキスト (Text)	Description 注釈をオーバーライドするテキストを提供します。

例 : AutoPopulate 注釈

```
##template variables
@(Warning="This is a
warning msg")
  string SITE_ID;
##
```

例 : DisplayName 注釈

```
##template variables
@(DisplayName="Host Name", Description = "Description of the host")
String hostname;
@(DisplayName="Host Address", Description = " test description" IsManagementIP=true)
IPAddress hostAddress;
##
```

例 : **IsMandatory** 注釈

```
##template variables
@(IsMandatory="ipv6!=null")
IPv4Address ipv4;
@(IsMandatory="ipv4!=null")
IPv6Address ipv6;
##
```

例 : **IsMultiLineString** 注釈

```
##template variables
@(IsMultiLineString=true)
string EXTRA_CONF_SPINE;
##
```

IsShow 注釈


```
例 1##template variables
boolean isVlan;
@(IsShow="isVlan==true")
integer vlanNo;
##
```

```
例 2##template variables
boolean enableScheduledBackup;
@(IsShow="enableScheduledBackup==true",Description="Server time")
string scheduledTime;
##
条件「enableScheduledBackup==true」は、true/false に評価されます。
```

```
例 3##template variables
@(Enum="Manual,Back2BackOnly,ToExternalOnly,Both")
string VRF_LITE_AUTOCONFIG;
@(IsShow="VRF_LITE_AUTOCONFIG!=Manual", Description="Target Mask")
integer DCI_SUBNET_TARGET_MASK
##
条件「VRF_LITE_AUTOCONFIG!=Manual」は文字列比較に一致し、true または false に評価されま
す。
```

例：警告の注釈

```
##template variables @(Warning="This
is a warning msg")
string SITE_ID;
##
```

テンプレートの内容

この項には、テンプレートで使用する構成コマンドと、すべてのパラメータが含まれています。これらのコマンドには、テンプレート変数セクションで宣言された変数を含めることができます。コマンド生成プロセス中に、変数の値がテンプレートの内容に適切に置き換えられます。



含めるコマンドは、グローバル構成コマンドモードを他のデバイスに入力する時のように指定する必要があります。コマンドを指定するときは、コマンドモードを考慮する必要があります。

テンプレートの内容は、変数の使用によって決まります。

- スカラ変数：反復に使用できない値の範囲または配列を取得しません（変数タイプテーブルでは、`iterate-able` が「No」としてマークされています）。スカラ変数はテンプレートの内容内で定義する必要があります。

```
構文： $$ <variable  
name> $$ 例： $$USER_NAME$$
```

- 反復変数：ブロックの反復に使用されます。これらのループ変数は、次に示すように、繰り返しブロック内でアクセスする必要があります。

```
構文： @<loop variable>例：  
foreach val in  
$$INTEGER_RANGE_VALUE$$ { @val  
}
```

- スカラー構造体変数：構造体メンバー変数は、テンプレートの内容からアクセスできます。

```
構文： $$<structure instance name>. <member variable name> $$ 例：  
$$myInterface.inf_name$$
```

- 配列構造変数：構造体のメンバー変数は、テンプレートの内容からアクセスできます。

```
構文： $$<structure instance name>. <member variable name> $$ 例：  
$$myInterface.inf_name$$
```

テンプレート変数に加えて、次のステートメントを使用して、条件付きコマンドと反復コマンドの生成を使用できます。

- **if-else if-else** ステートメント：その中の変数に割り当てられた値に基づいて、設定コマンドのセットの包含/除外を論理的に決定します。

```

構文：if(<operand 1> <logical operator> <operand
2>){ command1 ..
command2..
..
}
else if (<operand 3> <logical operator> <operand 4> )
{
Command3 ..
Command4..
..
}
else
{
Command5 ..
Command6..
..
}
例：if-else if-else statement
if($$USER_NAME$$ = 'admin'){
Interface2/10
no shut
}
else
{ Interface2/1
0 shut
}

```

- **foreach** ステートメント：コマンドのブロックを反復するために使用されます。反復は、割り当てられたループ変数値に基づいて実行されます。

```

構文：
foreach <loop index variable> in $$<loop
variable>$$ { @<loop index variable> ..
}
例：foreach Statement
foreach ports in $$MY_INF_RANGE$$ { interface
@ports
no shut
}

```

- オプション パラメータ：デフォルトでは、すべてのパラメータが必須です。パラメータをオプションにするには、パラメータに注釈を付ける必要があります。

変数セクションには、次のコマンドを含めることができます：

- @(IsMandatory=false)
- Integerfrequency;

テンプレートの内容の項では、「if」条件チェックを使用せずに、パラメータに値を割り当てることで、コマンドを除外または含めることができます。オプションのコマンドは、次のように構成できます。

- `probeicmp[frequencyfrequency-value][timeoutseconds][retry-countretry-count-value]`

高度な機能

次に、テンプレートの構成に使用できる高度な機能を示します。

- 割り当て操作

構成テンプレートは、テンプレート コンテンツ セクション内の変数値の割り当てをサポートします。変数の宣言されたデータ型の値が検証されます。不一致がある場合、値は割り当てられません。

割り当て操作は、次のガイドラインに従って使用できます：

- 左側の演算子は、テンプレート パラメータまたは `for` ループ パラメータのいずれかである必要があります。
- 正しい値の演算子は、テンプレート パラメータ、ループ パラメータ、引用符で囲まれたリテラル文字列値、または単純な文字列値のいずれかの値です。

ステートメントがこれらのガイドラインに従っていない場合、またはこの形式に適合しない場合は、割り当て操作とは見なされません。これは、他の通常の行と同様に、コマンド生成時に置き換えられます。

例：割り当て操作 `##template` プロパティを持つテンプレート

```
name =vlan creation;
userDefined= true;
supportedPlatforms = All;
templateType = CLI;
published = false;
##
##template variables
integerRange vlan_range;
@(internal=true)
integer vlanName;
##
##template content
foreach vlanID in
$$vlan_range$$ { vlan @vlanID
$$vlanName$$=@vlanID
name myvlan$$vlanName$$
}
##
```

- Evaluate メソッド

設定テンプレートは、Java ランタイムが提供する Java スクリプト環境を使用して、算術演算（ADD、SUBTRACT など）、文字列操作などを実行します。

テンプレートリポジトリパスで JavaScript ファイルを見つけます。このファイルには、算術文字列関数の主要なセットが含まれています。カスタム JavaScript メソッドを追加することもできます。

これらのメソッドは、次のフォーマットの構成テンプレートコンテンツセクションから呼び出すことができます：

例 1：

```
$$somevar$$ = evalscript(add, "100", $$anothervar$$)
```

また、次のような if 条件の内部で *evalscript* を呼び出すことができます。

```
if($$range$$ > evalscript(sum, $$vlan_id$$, -  
10)){ do something...  
}
```

Java スクリプト ファイルのバックエンドにあるメソッドを呼び出すことができます。

- 動的な決定

構成テンプレートは、特殊な内部変数「LAST_CMD_RESPONSE」を提供します。この変数には、コマンド実行中のデバイスからの最後のコマンド応答が格納されます。これは、デバイスの状態に基づいてコマンドを提供するための動的な決定を行うために、構成テンプレートのコンテンツで使用できます。



if ブロックの後には、空の場合もある新しい行で else ブロックを続ける必要があります。

VLAN がデバイス上に存在しない場合の VLAN の作成例。

```
例：VLAN ##template content  
の作成  
show vlan id $$vlan_id$$  
if ($$LAST_CMD_RESPONSE$$ contains "not found")  
{ vlan $$vlan_id$$  
} else {  
}  
##
```

この特別な暗黙的変数は、「IF」ブロックでのみ使用できます。

- テンプレート参照

すべての変数を定義した基本テンプレートを作成できます。この基本テンプレートは、複数のテンプレートにインポートできます。基本テンプレートの内容は、拡張テンプレートの適切な場所に置き換えられます。インポートしたテンプレートパラメータと内容は、

拡張テンプレート内でアクセスできます。

```
例：テンプレート参照ベーステ  
ンプレート：  
##template properties  
  name =a vlan base;  
  userDefined= true;  
  supportedPlatforms = All;  
  templateType = CLI;  
  published = false;  
  timestamp = 2015-07-14 16:07:52; imports  
  = ;  
##  
##template variables  
  integer vlan_id;  
##  
##template content  
  vlan  
  $$vlan_id$$  
##  
  
派生テンプレート：  
##template プロパティ  
  name =a vlan extended;  
  userDefined= true;  
  supportedPlatforms = All;  
  templateType = CLI;  
  published = false;  
  timestamp = 2015-07-14 16:07:52; imports  
  = a vlan base,template2;  
##  
##template variables  
  interface vlanInterface;  
##  
##template content  
  <substitute a vlan base>  
  interface $$vlanInterface$$  
  <substitute a vlan base>  
##
```

拡張テンプレートを起動すると、基本テンプレートのパラメータ入力も取得されます。また、置換された内容は、完全な CLI コマンドの生成に使用されます。

レポート テンプレート

REPORT テンプレートのテンプレート タイプは `python` で、2 つのサブタイプ (UPGRADE と GENERIC) があります。

アップグレード

UPGRADE テンプレートは、ISSU 前後のシナリオに使用されます。これらのテンプレートは、ISSU ウィザードに表示されます。

ISSU 前後の処理の詳細については、Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラにパッケージ化されているデフォルトのアップグレードテンプレートを参照してください。デフォルトのアップグレードテンプレートは `issu_vpc_check` です。



ISSU 操作を実行するには、新しい NDFC ユーザーが最初に [ログイン情報管理 (Credential Management)] ページで必要なデバイスクレデンシャルを設定する必要があります。最初に適切なデバイス ログイン情報を設定しないと、ISSU 操作を実行できません。

GENERIC

GENERIC テンプレートは、リソース、スイッチ インベントリ、SFP、NVE VNI カウンタに関する情報の収集など、一般的なレポート シナリオに使用されます。このテンプレートを使用して、トラブルシューティング レポートを生成することもできます。

リソース レポート

このレポートには、特定のファブリックのリソース使用状況に関する情報が表示されます。

[**サマリ (Summary)**] セクションには、すべての情報技術プールと現在の使用率が表示されます。より多くの列を表示するには、ウィンドウの下部にある水平スクロールバーを使用します。

POOL NAME : プールの名前を指定します。

POOL RANGE : プールの IP アドレス範囲を指定します。

SUBNET MASK : サブネット マスクを指定します。

MAX ENTRIES : プールから割り当て可能な最大エントリ数を示します。 **USAGE INSIDE RANGE** :

プール範囲内に割り当てられている現在のエントリ数を指定します。 **USAGE OUTSIDE RANGE** : プール

範囲外に設定されている現在のエントリ数を指定します。

USAGE PERCENTAGE : これは、(範囲内での使用数/最大エントリ数) *100 という式を使用して計算されます。

*100。

[**詳細の表示 (View Details)**] をクリックして、各技術情報プールに割り当てられた、または設定されたリソースのビューを表示します。たとえば、**SUBNET** の詳細セクションには、サブネット内で割り当てられたリソースに関する情報が含まれます。

スイッチ インベントリ レポート

このレポートは、スイッチ インベントリに関する概要を提供します。

[**詳細の表示 (View Details)**] をクリックして、モジュールとライセンスに関する詳細情報を表示します。

SFPレポート

このレポートは、ファブリックおよびデバイス レベルでの SFP の使用率に関する情報を提供します。

スイッチ インベントリおよび SFP レポートは、Cisco Nexus デバイスでのみサポートされます。

トラブルシューティング レポート

これらのレポートは、トラブルシューティングのシナリオに役立つように生成されます。現在、定義済みのトラブルシューティング レポートは **NVE VNI** カウンタ レポートのみです。**NVE VNI** カウンタ レポートの生成では、ネットワーク トラフィックに基づいて上位ヒットの VNI を特定するための定期的なチェックが実行されます。大規模なセットアップでは、レポートの生成頻度を 60 分以上に制限することをお勧めします。

NVE VNI カウンタ レポート

このレポートは、ファブリック内の各 VNI の `nve vni counters command` コマンド出力を収集します。

最も古いレポートと最新のレポートを比較すると、**[サマリ (Summary)]** セクションには上位 10 件のヒット VNI が表示されます。上位ヒット VNI は、次のカテゴリに表示されます。

- ユニキャスト トラフィック用の L2 または L3 VNI
- マルチキャスト トラフィック用の L2 または L3 VNI
- ユニキャスト トラフィック用の L2 のみの VNI
- マルチキャスト トラフィック用の L2 のみの VNI
- ユニキャスト トラフィック用の L3 のみの VNI
- マルチキャスト トラフィック用の L3 のみの VNI

最も古いレポートは、現在のレポート タスクで保存された最初のレポートを参照します。現在のレポートと比較する必要がある最初のレポートとして特定のレポートを選択する場合は、選択したレポートが最初で最も古いレポートになるように、選択したレポートよりも古いすべてのレポートを削除します。

たとえば、昨日の午前 8 時、午後 4 時、および午後 11 時に 3 つのレポートが実行されたとします。今日のレポートの最初の最も古いレポートとして午後 11 時にレポートを使用する場合は、昨日の午前 8 時と午後 4 時に実行されました。

定期レポートの場合、最も古いレポートは、期間の開始時刻に実行される最初のレポートです。日次および週次レポートの場合、現在のレポートが以前に生成されたレポートと比較されます。

[サマリ (Summary)] セクションには、送信された合計バイト数と VNI に関する情報を含むコラムごとのレポートが表示されます。より多くの列を表示するには、ウィンドウの下部にある水平スクロール バーを使用します。

NVE VNI カウンタ レポートの **【サマリ (Summary)】** セクションでは、スイッチのリロード後またはスイッチのカウンタのクリア後にレポートが生成された場合、**【合計送信バイト数 (TOTAL TX BYTES)】** 列に負の数が表示されます。番号は、後続のレポートで



◎ 正しく表示されます。回避策として、古いレポートをすべて削除または、スイッチをリロードする前、またはカウンタをクリアする前に新しいジョブを作成することをお勧めします。**【表示... (View...)】** ボタンをクリックします。**【詳細 (Details)】** をクリックして詳細情報を表示します。このセクションでは、スイッチごとに NVE VNI とカウンタを示します。

レポートの表示方法の詳細については、「プログラム可能なレポート」の章を参照してください。

著作権

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザーインターフェイスにハードコードされている言語、RFP のドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。

シスコおよびシスコのロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、<http://www.cisco.com/go/trademarks> を参照してください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)。

© 2017-2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.